



君たちも元気!

大森山動物園 園長 小松 守

東日本を襲った大震災直後の3月19日は大森山動物園の春の開園日でした。開園すべきか、いろいろ迷いました。私たちの結論は「動物からパワーをもらっていただく」でした。多くの方が身も心も疲れ、希望を失いかけている時だからこそ敢えて、開園に踏み切りました。「こんな時に開園するとは」とのお声もいただきました。多くの方が亡くなるなど、また、満身に食べるものもない時期に……。しかし、大震災で暗い気持ち、マイナス思考に陥りがちな時期だからこそ開園することに意味があると決めました。

誰も来なかったらどうしよう。それは、不謹慎なという批判の表れとも言えます。正直、心配でした。開園翌日の日曜日、肌寒い日にもかかわらず1,000人を超えるお客さまが笑顔で楽しんでいる様を見て、逆に私たちの方が勇気をもらいました。皆、動物園の開園を待っていたんだと確信できたからです。お客さまの笑顔は、動物園の大事な使命が何であるかの強い

メッセージとなり、心を揺さぶりました。動物との出会いに子どもばかりでなく、大人にも満面の笑みがこぼれていました。予定通り開園して良かった。動物園と動物たちにはすごい力があるのだ。

開園後すぐの21日、福島県南相馬市から避難していたご家族をご招待しました。かわいらしいプレーリードッグを目の当たりにし、子どもらが動物を呼ぶ声、今でも忘れられません。「君たちも元気・・・」。大森山動物園のテーマは「動物と語らう森」です。

最後になりますが、様々な応援メッセージ、支援に対しこの場をお借りして御礼を申し上げます。そして、一日も早い被災地の復興を同じ東北の空の下で、祈り続けたいと思います。



被災地から招待した子どもたち

これからも『元気』を発信します!



本園から被災地の動物園へ送る支援物資
写真提供:(有)ライノ

特集1

東日本大震災と大森山動物園

動物たちから元気を!

東日本大震災・その時

飼育展示担当 主査 三浦 匡哉

3月11日

【14時46分】

東北地方を中心とする震度5強の地震が発生し、園内が停電した。ただちに園内の緊急点検を行い、動物の脱出、施設・設備の被害の有無を調査し、大きな異常がないことを確認した。

【18時50分】

園内の外気温は3月といっても、場所によっては最高気温も氷点下の寒い日が続いていた。小型サル類や爬虫類等の寒さに弱い動物のために、自家発電装置3台、石油ストーブ6台を準備した。

【20時15分】

動物の状態確認と暖房装置給油のため、5人の夜間保安体制に移行した。3時間おきに園内を巡回し、暖房装置の点検や給油、動物の状態確認を行った。

3月12日

停電が継続した場合の対策を協議し、ゾウ・キリン、チンパンジー等の暖房対策のために業者から3相自家発電装置を借り受け、夕方16時30分に稼動した。17時30分から2日目の夜間保安体制に移行。19時頃、浜田地区とともに動物園も復電したため、自家発電等から切りかえる復電作業を行った。夜間保安体制は22時をもって解除となった。

3月13日以降

停電は解消されたが、動物の餌や暖房・車輛の燃料の不足が懸念された。すぐに餌が不足し始め、通常給餌する量を半分に減らすなどして対応した。また、燃料についても、節約を徹底した。

3月19日

通常営業開始。また、日本動物園水族館協会からの支援物資が本園にも到着。道路事情が悪い中、長時間、長距離にわたって物資を届けていただいた。

4月7日

徐々にいつもの状態に戻りつつあったが、23時32分に再び震度5強の地震が発生し、秋田全域で停電。8日の0時10分に園内の緊急点検を実施した。停電は8日の午後には復旧した。幸い、外気温も上がりはじめていたため、3月11日の大震災のような影響はなかった。

3月11日
地震後の事務所



東日本大震災・その後

大森山動物園として何ができるだろうか?被害がそれほど大きくなかった秋田が、徐々に落ち着きを取り戻し、普段の日常生活に戻りつつある頃から、大森山動物園の職員みんなでもいろいろ考えてきました。秋田の動物園を盛り上げることによって、秋田を、東北を、日本を元気づけようということになり、その結果、予定通り3月19日の開園となりました。

大森山動物園では、施設の被害がそれほどなかったため、近隣の被災した動物園や水族館に対し、私たちができる少しばかりの支援物資をお届けしました。また、秋田市役所の一課所室として、被災地派遣業務に携わったり、秋田市に避難して来られた方たちの対応業務などに従事する職員もいました。

動物園を盛り上げるために、『がんばろう東北!動物たちから元気を!!』というスローガンのもと、横断幕を作成し、あらゆる場所でアピールしたり、毎年6月に開催し

ている『春の動物ふれあいフェスティバル』を『春のふれあい動物園』とし、動物パレードを行いました。たくさんの方に来ていただき、たくさん笑顔を見ることができました。

また、岩手、宮城、福島などの被災地から大森山動物園に来られた方々もいます。そうした方々には、日頃の辛い思いを一瞬でも忘れ、動物たちから少しでも元氣や癒しが届いていたらと思います。

毎年恒例の『秋の動物ふれあいフェスティバル』(体育の日とその前日)は、今回、『絆』をメインテーマに実施します。こんな時だからこそ、動物園というところで、家族、友人、恋人などの絆を確かめ合って欲しいとの願いを込めて開催します。

最後に、東京多摩動物公園はじめ他の動物園や水族館館などから、お見舞いと応援メッセージの寄せ書きなどが届けられました。この場を借りて、お礼申し上げます。

これからも『動物たちから元気を』発信できるように大森山動物園はがんばって行きたいと思っています。



東京多摩動物公園
来園者・職員からの
応援メッセージ



春のふれあい動物園



本動物園水族館協会から
届いた支援飼料
写真提供:(有)ライノ



支援飼料の運搬作業
写真提供:(有)ライノ

